

※学校ブログで、ほぼ毎日のように情報発信しています。

読み聞かせサークルと「つながる」

校長 青坂 信司

◆毎週金曜日の朝、お母さん方が集まってきます。読み聞かせサークル「ねぎぼうず」の皆さんです。朝8時10分から朝読書の時間です。登校してきた子ども達は、学習の準備をして、教室で静かに過ごしていたり、体育館で遊んでいたたり、廊下で遊んでいたたりします。その子どもたちが、8時10分のチャイムが鳴ると教室に入って、「ねぎぼうず」の皆さんの読み聞かせを聞くために準備します。

◆「ねぎぼうず」の方が、絵本を携えて「おはよう」「おはようございます」と挨拶しながら教室に入ってきます。子ども達は、読み聞かせが好きです。例えば、4年生の子に調査してみると16名の子たちが「好き」と答えています。この読み聞かせが好きと答える傾向は、他の学年でも同じです。



◆「ねぎぼうず」の方の読み聞かせ。各学級の聞き方は様々です。読み聞かせの方の前に椅子を持って来て集まる学級。自分の座席で聞く学級。それぞれの学級のスタイルがあります。読み聞かせが始まると子ども達は食い入るように絵本を

見つめ、話に聞き入ります。読み聞かせが終わると、時には自然に子ども達から拍手が起きたりします。



◆「ねぎぼうず」の方々、この読み聞かせを始めた当初は緊張の連続だったといえます。「今でも緊張します」と言う方もいます。朝の忙しい時に週に一度とは言え、なかなか大変な事です。家族の理解や協力がなければ続かないことです。家族の方から「この朝の忙しい時間に、行ってどうするんだ。学校の先生に任せとけ！」なんて言われた方もいるかもしれませんね。

◆親や地域の方が、学校の中に入って子ども達に何かをするというのは、大変勇気のいることだったと思います。また、読み聞かせサークルというボランティア団体の土壌もない地区で、サークルを立ち上げ活動されてきたことに頭が下がります。

◆さて、その読み聞かせサークル「ねぎぼうず」も記念すべき1周年を迎えました。おめでとうございます。今後ともよろしく願います。